

プログラミングに挑戦する教員
17日、あわら市細呂木小



プログラミング 教員学ぶ

あわら 小学校必修化向け31人

あわら市内の小中学校教員を対象にしたプログラミング教室が17日、同市細呂木小で開かれた。全9校から31人が参加し基礎を学んだ。

2020年度から小学校でプログラミング教育が必修化されるのに向け細呂木小が企画、他校にも参加を呼びかけた。ソフトウェア開発会社「jig.jp」(鯖江市)の福野泰介会長(40)が講師を務めた。

同校の岩佐章弘教諭(25)は「プログラミングというと難しいイメージで今後、教育に取り入れるのは不安だったが、意外に簡単に楽しく取り組めた」と話していた。(黒田美紗)

同社が開発した手のひらサイズの子ども向けプログラミング専用パソコン「IchigoJam(イチゴジャム)」を教材に使用した。参加者は講師に教わりながらコマンド(命令)やプログラムを入力。パソコンに付いた発光ダイオード(LED)を点滅させたり、川下りのように障害物をよけるゲームを楽しんだりしながら仕組みを学んだ。